

アタッチメントについて

江刺保育園 全体職員会議資料

乳児は身体的に未熟な状態で生まれてきます。普通の動物と比較した場合、実際は20ヶ月くらい母体の中に居なければならぬのですが、体が未熟な割には大きいので母体が耐え切れず10カ月で出産するようになっていたのだそうです。人間は平均して3kg弱で生まれますが、ゴリラは平均して1.9kgです。しかし、人間の精神はある程度成長して生まれてきます。物の感覚的な区別、人の声の区別、相手の気持ち、を理解できるようになっています。生後半年までには喜び、悲しみ、嫌悪、怒り、恐れ、驚き、等の基本的な感情が育っていることが確認されています。言葉の微妙な違い、声の質など赤ちゃん達はしっかりと区別することが出来ます。赤ちゃん達はそれぞれの環境に従って、必要な物と不必要な物を区別し、不必要な物は自分で廃棄しながら成長しているのです。そして一人の人間として成長する為に、正しいアタッチメントの対応が必要であり、この対応によって赤ちゃんの生き方、精神がほぼ決まってしまうのだそうです。

子どもを育てる上で、人間の場合赤ちゃんは未熟な状態で生まれてきますから、自分で動くことはできません。自分の行動によって必要な栄養を獲得するとか、体温調整、安全確保など、自分の力では出来ない状況で生まれてきます。必ず、自分の世話をしてくれる人がいなければ命を保つことが出来ないのです。また母親にしても、出産は命がけの出来事であり、出産後一人で赤ちゃんの世話を全て自分一人で行うことは非常に困難なのです。従って人間は命を継承する為に、家族を形成し、力を合わせ協力して子どもの命を守り、成長を支えてきました。これらの行為が人間として生きるための必要不可欠な文化になっています。

アタッチメントとは、以前は「愛着」という意味に捉えられてきました。愛情形成のように捉えられてきていました。そのような意味もありますが、アタッチメントとはもっと単純に「くっつく」という意味に捉えられています。「くっつく」とは簡単に言えば「抱っこする」ということです。子どもの成長にとって「くっつく」ことが出来る誰かが近くにいることが大切なのです。「くっつく」ことによって、不安、恐れ、寂しさ等の不快感を克服するのです。自分の中に在る不安要因から自分は守られているという信頼感を自分の中で育て成長するのです。子どもが不安や不快等感じた時、「くっつく」ことができる信頼できる保育者がいつでもそばにすることが成長に大きな影響を及ぼすことが確認されています。信頼できる大人とは家族や保育者、祖父母、その他であって、親でなければならないということではありません。当然、いつでも抱っこしてくれる人がいる子どもの方が、明らかに成長に於いて精神的な自立が早まることが確認さ

れています。逆に、だれも「くっつく」ことが出来ないで育てられた子は、自立できず、甘えや不安感の中で生きて行くことになります。子どもにとって安心できる養育者、つまり「くっつく」ことの出来る人がいないことは、子どもの成長に大きなダメージを与えることになるのです。当初、保育園で赤ちゃんの保育について、母親が関わらないのは子どもの成長に大きな問題を残すことになるのでは、という考えもありました。保育園を利用した子どもは何か問題があるように捉えられていた時代もあったのですが、実際に0歳児の保育が行われ保育園などの乳幼児保育施設で乳児がしっかりと成長できることが実績として証明されているのです。これはアタッチメントの対応が正しく行われてきたから何の問題もなく成長できたのだと言えるのです。

アタッチメントは0歳から2歳、3歳児前半の対応の中で重要な対応になっています。以前は、抱き癖、とか甘えの助長のためにある程度の厳しさが必要と言う考え方もありましたが、これは過去のことです。子どもの発達過程の研究が進み、子どもが「抱っこ」を求めても、継続的につき離す、放置する、強い言葉で叱責する、等は何の効果もなく、これらの対応は保育者が子どもとの関係性を放棄し、関係性を破壊する対応になってしまうのです。継続して厳しく対応することは子どもの成長にとって何の益もなく、逆に子供の精神的な成長に損害をもたらす行為になってしまう危険性をもっていることも研究され実証されています。保育対応の中で特に乳児の保育に於いて重要な事は如何に指導するのかということより、どのように見守り、どのように「抱っこする」のかということのほうがより重要なのです。

アタッチメントとはどのような対応であるのか

- 子どもの思いを推測し、先回りをしない。
- 泣かないようにと、いつでも「抱っこ」するのではない。
- 子どもが求めている時は見守る。
- 子どもが「抱っこ」を求めて移動できる範囲の中で見守る。
- 保育者は子どもにとって安心できる避難所になる。
- 子どもが求めた時に抱っこする。
- 子どもの気持ちを共有する。不安や痛み、寂しい気持ち等、同じ気持ちを受け入れ声掛けをする。

参考文献「赤ちゃんの発達とアタッチメント」

著者：東京大学教授 遠藤利彦氏 ひとなる書房 1,404円